



①薄黄色の姿をしたウスバカマキリ
②変異色のウスバカマキリを見つけて喜ぶ諏訪さん



黄色いウスバカマキリ

中讃で高校生が発見

NPO法人「みんなであつくる自然史博物館・香川」（まんのう町）の「生物部員」として活動する香川誠陵高3年の諏訪未洋さん（17）＝高松市林町＝が、中讃地域で非常に貴重なカマキリを見つけた。絶滅の恐れがあるとして県レッドデータブックに掲載されている「ウスバカマキリ」で、一般的な個体は緑色や茶色だが、白に近い薄黄色の個体。専門家も「レア中のレア」と発見を驚いている。

絶滅の恐れ×変異色

ウスバカマキリは、一般的なオオカマキリなどと比べ羽が薄く、カマの先端が赤いのが特徴。河川敷や適度に管理された草地に生息し、夜行性とみられる。河川開発の進行により、全国的にも絶滅危惧としている都道府県も多い。

県内では標本1体と写真1枚しか現存せず、判断情報が少な過ぎるとして、2021年版の県レッドデータブックでは「情報不足」に分類されている。既に絶滅したとの見方もあったが昨年、諏訪さんら仲間3人が初の個体群を中讃地域で発見、今も生息していることが判明した。

子どもの頃から昆虫好きの諏訪さんは、同法人の生物部員としてイベントなどを手伝うほか、バッタ・カマキリを専門に、時間を見つけては生息数の調査や採集に出

専門家「レア中のレア」

かけている。今回のレア個体は、8月上旬の午後9時ごろ、ウスバカマキリの現状確認に行った際に見つけた。体長約5センチの雌の成虫で、「見つけた時は、めちゃくちゃ興奮した」と諏訪さん。同法人によると、「そもそも国内でウスバカマキリ自体の個体数が非常に少ない。その中で緑色や茶色以外の成虫が見つかった例はほとんどない」という。

将来は昆虫の研究者を目指しているという諏訪さんは「まだ香川にこうした珍しい個体が残っているのはいいことだが、生息範囲はすごく狭く、絶滅の恐れが依然として高い。もっと自然への関心が高まり、残された昆虫をどう保護していくか考えてもらえたらうれしい」と話している。